

# 未来への挑戦 そして責任



## 鈴木しげまさ通信

発行人 鈴木重正  
三沢市松園町 1-11-3  
TEL 0176-53-2409

### 新年にかける熱き想い!!

今、私たちが暮らしているこのまちは、一朝一夕に築き上げられたものではありません。私たちの先祖、そして諸先輩方が苦勞を重ね、知恵を絞り、幾多の困難を乗り越えて、長い年月をかけて築き上げてくださったものです。

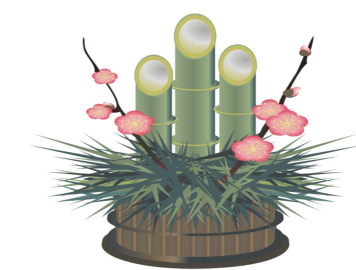
#### 先人への感謝

新しい年を迎え、初心に立ち返り、志を持って頑張ってください。平成29年酉年が皆様一人ひとりとって、たくさんの幸せが訪れる一年でありますように。

愛するふるさと三沢を決して後退させることなく、今以上に少しでも発展、繁栄させてよかった、住んでよかった」と胸を張って言えるよう、自分のふるさとに夢が持てる、誇りが持てる、よりよいまちを築き上げ、次代を担い、未来を迎える子どもたちや孫たちにしっかりと引き継いでいくということが、今を生きる私たちに与えられた使命・責任であると思っています。かつて経験したことのない本格的な人口減少社会を迎え、地方の状況は今後更に厳しさを増していくと思えます。しかし、そういう中、自分のふるさとに夢をもつことができないう、誇りをもつことができない、そういうまちにしてはいけません。

#### 愛する郷土のために

長い年月をかけてこのまちを築き上げてくださった先人たち、そして、次代を担う子どもたち、孫たちに恥ずかしくないよう、夢と誇りあふれるまちづくりをししっかりと進めていかなければならないのです。



新年にかける熱い想いをお伝え申し上げます。ご挨拶と致します。

## しげまさ日記

### 私の思い出

今日、平成28年9月11日は、清々しい秋晴れの下、三沢基地航空祭が開催され、たくさんの「顔・かお・カオ」に出会い、そして再会がありました。

くしくもこの日は、亡き母の3度目の命日、墓前にて静かに手を合わせました。親孝行したいときに親はなし…。そして、多くの犠牲命を奪ったあの同時多発テロ事件から15年。当時は仙台防衛施設局に勤務しており、仙台で見えぬ衝撃的なニュースの映像は決して忘れることはできません。平和、仲間、命、当たり前の大切さ、家族、感謝など様々なことに思いをめぐらせた一日です。



### 最期の幸せ

「人生のたとえ99%が不幸だとしても 最期の1%が幸せならば その人生は幸せなものに変わる」  
(マザー・テレサの言葉)

平成28年10月15日、看取り士会会長の柴田久美子さんの講演を拝聴。看取り士とは、「自分が望む場所で望むように旅立ちたい。大切な人を看取りたい」そんな方々を支える人たちです。どこで、誰に、どんなふうに見取られるのか？

大切な人の最期に直面するとき、どんなふうに見取られるのか？ 考えたこともありませんでした。命を守り育てる、そしてその幸せな最期を考える。とても貴重で有意義な時間を過ごしました。

### 地域防災力向上 シンポジウムin青森

「来る人口減少時代に、その一歩が大切！ 地域一丸となった防災・減災への備え」

平成28年11月15日、地域防災力向上シンポジウムin青森に参加。少子高齢化・人口減少が進展する中で、地域防災力の維持・向上を図るためにはどうしていくべきか？

防災に限らず、自らの命は自らで守る「自助」が基本ではあるが、自らを守ることができない方々・将来的にできなくなっていく方々がたくさんいることが現実。共に助け合い・支え合う「共助」が当たり前前の社会を構築していかなければならないなあ」と改めて強く感じた一日でした。

## あなたの声をお寄せください

ご意見、ご感想、ご要望など「あなたの声」をお寄せください。

皆様から頂戴したご意見等は、今後の政治活動の参考にさせていただきます。また、ご本人様のご了承を得た上で、内容に応じてご紹介させていただきます。

皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。  
ホームページにご投稿いただきましたあなたの声をご紹介させていただきます。

### あなたの声

最近新聞などの報道に三沢の記事が少ないという話が聞かれる。職員の働きが足りないとか、行事がマンネリ化しているとか、活気がないとか周りの雀たちが大騒ぎである。

その原因は、三沢にリーダーがいなく、アイデアも無い、何にもないづくし。住民の不満が今にも爆発しそうです。十和田や六戸・おいらせなどの地域間競争に政策面でも負けている。本当にそう思える。今、何とかしなくては、人が住まないまちになる。そんな心配が現実とならないことを強く願う。  
(三沢を心配する人)

### あなたの声

「仏を作って魂入れず」という言葉がある。中身が伴って初めて意味がある。  
今回、大きな体育館ができる。本場に地域や市民に利益をもたらされるかが疑問である。市民全体にとってどれぐらい必要度が高く、優先度があり、さらには、維持管理費など建

あなたの声をお寄せください  
FAX : 0176-58-7075  
ホームページ  
<http://www.suzukishigenasa.com/>  
(討議資料)

(三沢市 WT)

# あたらしい三沢の街づくり

## 三沢を元気に！

### 人口流出が止まらない 人口減少問題

少子高齢化の進展や人口の減少、東京一極集中等により消滅危機にある自治体が発表されるなど、日本は、人口減少が社会問題になっている。特に地方の状況は、深刻である。



三沢市 青森県の人口は平成28年4月1日現在の推計で129万7378人となり、約139万人だった平成20年からわずか8年の間に10万人も、減少していることである。

#### 三沢からの転出

三沢市においても人口は減少し続けており、県の推計人口によれば平成28年4月1日現在で4万人を割る3万9693人となっている。県内では、出生率が高く高齢化率の低い三

沢市の人口が減少している理由は、出生と死亡の差はほとんどないが、転入に比べ転出が県内他市に比較して多いことがあげられる。

#### 必要な施策は？

平成25年度から平成27年度の3年間の平均では、全体の転出は2489人（転入は2105人）となっており、その中で特に隣接しているおいらせ町へは244人、六戸町へは109人、2町合計で毎年平均353人の市民が2町に転出してきている状況にある。

#### 必要な施策は？

これまで住宅地の問題などが指摘されているが、将来を見据えたより積極的な定住対策が望まれる。

### 「食」で元気に！

#### 食でまちおこし

十和田のバラ焼きがB・1グランプリで優勝、そして、一昨年「B・1グランプリ」で「十和田」を開催するなど、十和田市がバラ焼きで市民・行政が一体となって盛り上がり、この姿を見ていると、バラ焼き発祥の地三沢市民の一人としてちょっと複雑な気持ちとなるが、地域資源を活用してまちおこし活動を頑張っている姿は見習うべきところが多い。

食を通してまちおこし活動として最近では、新・ご当地グルメとして、深浦の「マグロステーキ丼」、平内の「ホタテ御膳」、中泊の「メバル膳」、田子の「ガリステごはん」といづれも好評で、更にネットワークを結成し「食」による観光まちづくりに取り組んでいる。

#### 三沢の地域資源を活かせ！

三沢市には有望な食の地域資源がたくさんあるが、加工して付加価値を付けたり、三沢ブランドとして発信したり、市民・行政が一体となってまちおこし

活動まで連動したものはあまりないと思う。

地域資源の一例をあげれば、三沢は日本一のごぼうの里であるし、全農あおもりが毎年開催している「にんにく品評会」では、三沢産にんにくがここ15年間で9回も最優秀賞を獲得している。

国産にんにくの約8割を青森県産が占めていることから、三沢産が品質では日本一である。



また、畜産関係では『やまざきポーク』や『川賢のこだわりポーク』などが首都圏で人気を博している。その他にも、築地では『赤とんぼ』で有名なスルメイカや長いも、ほっき貝など全国で通用する一次産品はたくさんある。



グルメマップ2017 三沢 ほっき貝 表紙

事業、各種助成金の充実、加えて子どもを産み育てやすい、きめ細やかな環境づくりなど、総合的・横断的な定住化対策プロジェクト担当部局の創設により積極的な施策が必要である。

#### 郷土の誇り

そして「三沢市に住みたい」と選ばれるために、三沢市の様々な魅力を市内外に効果的に発信していく戦略に発信していく戦略を展開していくとともに更なる魅力づくりを自治体の生き残りをかけて取り組んでいかなくてはならない。



### 「スポーツ」で元気に！

#### 郷土の誇り

去年の夏は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催され、我が三沢市からもバスケットボール女子の監督として内海知秀氏が、車いすテニス（クアド部門）のコーチとして橋信宏氏が出場、彼らの指導力が発揮され、大いに盛り上がった。

#### スポーツ振興

本県ゆかりの選手も大活躍、出身市町村を始め地域住民みんなが応援に熱が入ったところでもある。

スポーツは、子どもからお年寄りまで、健康者も障がいを持つ方もみんなが楽しむことができ、教育効果や体力維持・健康増進、地域コミュニティの形成、経済活性化や地域振興など、その効果は非常に大きいものがあると言われている。

日本においては、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」の言葉から始まるスポーツ基本法が平成23年に制定、スポーツ立国の実現を目指して、国家戦略としてスポーツに関する施策を総合的・計画的に推進することとされ、平成27年にはスポーツの振興その他のスポーツに関する施策の総合的な推進を図るスポーツ庁が設置されるなど、スポーツ振興による地域活性化も含めてスポーツに関しての環境が変化、新たな展開を迎えている。

#### 県内では

加えて2020東京オリンピック・パラリンピックを控えて、スポーツへの関心は一層高まることが期待される。

三沢市では、以前は車いすテニスの国際大会が開催されていたが数年前から開催されていない、40回続いてきた小川原湖駅伝も昨年でその幕を閉じる。それぞれに複雑な事情等があるとは思いますが、幕を閉じる前に打つ手はなかったのか、寂しさを禁じ得ない。

#### 三沢市では

南山地区では事業費50億円弱の巨費を投じて建設中の各種競技で国際大会基準を満たす「国際交流スポーツセンター」がその外観を現し、今秋にはオープンを迎える。



いわゆるハコモノは建設することが目的ではない。明確なビジョンのもとにどのように使われていくかが問われるのである。三沢市の活性化につながる「国際文化スポーツセンター」の幅広い活用を期待している。

#### スポーツ推進宣言

どうだろうか、これを機に散歩やラジオ体操から本格的な競技までスポーツを広く捉えて、「スポーツ推進宣言」のもとに、スポーツをする・観る・支える、スポーツで人もまちもみんな元気になっていく、そんなスポーツ政策にしっかりと取り組んでみては！

